

リン資源リサイクル推進協議会設立のご案内

わが国は、国内で消費するリンの全量を海外からの輸入に頼っていますが、リン鉱石の価格高騰と産出国による資源の囲い込みもあって、リン鉱石の入手が年々難しくなっています。このため、わが国は国内で使用したリンを回収し再利用したり、未利用リン資源の利用技術を開発する必要に迫られています。しかし、リン資源のリサイクルには広範な産業・社会分野が関係しているため、産学官の協力のもと関係者が一体となって、戦略的かつ総合的に取り組むことが強く求められています。

この度、産学官の関連事業者等が集まり、オールジャパンのレベルでリン資源のリサイクルについて、戦略的かつ総合的に協議する場として、リン資源リサイクル推進協議会を設立いたしました。皆様におかれましては、ぜひ設立の趣旨をご理解頂き、本協議会にご参加下さいますようお願い申し上げます。

平成20年12月18日



設立発起人

池田 誠 (財)日本肥糧検定協会
 猪股 敏郎 (財)日本土壌協会
 大竹 久夫 大阪大学
 兒玉 徹 (社)日本有機資源協会
 佐伯 謹吾 下水汚泥資源利用協議会
 (事務局:(社)日本下水道協会)
 長坂 徹也 東北大学
 成田 義貞 日本肥料アンモニア協会

(アイウエオ順)

【問い合わせ先】

リン資源リサイクル推進協議会 事務局 (社団法人日本有機資源協会内 担当:菅原)
 〒104-0033 東京都中央区新川2-6-16 馬事畜産会館401
 電話:03-3297-5618 / FAX:03-3297-5619 / E-mail:prpc@jora.jp
 URL:<http://www.jora.jp/rinji/rinsigen/index.html>

設立趣意書

リンは、植物や動物の生体を構成する主要な元素であるとともに、生命活動の維持に必要なエネルギーの獲得に関する重要な機能を担っているなど、欠くことのできない必須元素です。また、私たちは、リンを化学肥料、金属の表面処理、各種の触媒や化成品、食品添加物等の原料として、大量にかつ幅広く利用しています。

一方、リン鉱石の資源は限られた国に偏在しており、リン鉱石の採掘はアメリカ、中国、モロッコの上位3カ国で世界の約2/3を占めるなど、資源の安定供給面からの不安材料となっています。

このような状況の中、世界的な穀物需要の増加やバイオエタノールの生産等により、リン酸質肥料の需要が増大し、リン鉱石の価格は急騰しています。さらに、このままリンの需要量が増加傾向で推移すれば、今世紀の後半には経済的に採掘可能なリン鉱石が枯渇するというようなシナリオも発表されています。リンがなくなれば、食料はもとより低炭素型社会の新エネルギーとして期待されているバイオ燃料も生産できなくなります。また、工業用リンの入手が困難になれば、電子部品製造、金属表面加工、化学、食品工業などへの影響が深刻です。

わが国は、国内で消費するリンの全量を海外からの輸入に頼っていますが、リン鉱石の価格高騰と産出国による資源の囲い込みもあって、リン鉱石の入手は年々難しくなっています。このような状況に対処するため、わが国は国内で使用したリンの回収・再利用や、未利用リン資源の利用技術を開発する必要に迫られています。リン資源のリサイクルは技術的に極めて実現性が高く、大きな社会的貢献が期待できる事業分野です。しかし、リン資源のリサイクルには広範な産業・社会分野が関係しており、産学官の協力のもと関係者が一体となって、戦略的かつ総合的に取り組むことが強く求められています。

既に、都市下水などからリンを回収する技術はいくつも開発されていますが、回収したリンを効率よく再利用する技術とシステムの開発が立ち遅れているため、リン資源のリサイクルはまだうまく機能するに至っておりません。リン資源リサイクルの実現には、①都市下水などからリンを回収する事業化の大幅な推進、②リンの回収と再利用を円滑に進めるための事業者間連携、③農業及び工業分野での省リン技術の開発促進、④製鋼スラグからのリン回収技術の開発促進、⑤含リン廃棄物からのリン回収技術の開発促進、⑥工業用リン酸や黄リン製造技術の革新、⑦再生リンの利用を促進するための優遇措置など、国や地方自治体の関与はもちろん、産業界、大学等の協力を必要とする多くの課題が残されています。

これらの課題を解決するためには、まず産学官の関連事業者等が集まり、オールジャパンのレベルでリン資源リサイクルの推進について、戦略的かつ総合的に協議する場を設けることが不可欠であると考えております。私どもは、行政の縦割りや民間企業間の壁を越え、わが国におけるリン資源のリサイクルの実現をめざし、リン資源リサイクル推進協議会を設立したいと考えております。ぜひ設立の趣旨をご理解頂き、本協議会の設立にご参加頂けますようお願いを申し上げます。

検討課題等について

<検討課題>

① 現状認識

- ・ リン資源の循環と再生利用の現状について
- ・ 農業分野におけるリン使用の現状と今後の動向について
- ・ 工業分野におけるリン使用の現状と今後の動向について

② 未利用リン資源の回収技術

- ・ 下水汚泥等からのリン資源の回収技術について
- ・ 家畜糞尿等からのリン資源の回収技術について
- ・ 製鋼スラグからのリン資源の回収技術について
- ・ 含リン廃棄物からのリン資源の回収技術について

③ 省リン等の技術

- ・ 農業分野における省リン技術について
- ・ 工業分野における省リン技術について
- ・ 工業用リン酸や黄リン製造における技術革新について

④ リン回収の事業化に向けた課題等

- ・ 都市下水などからリンを回収する事業化の推進について
- ・ リンの回収と再利用を円滑に進めるための事業者間連携のあり方について
- ・ 再生リン資源の利用を促進するための施策について

<協議会の進め方>

- ・ 協議会に賛同する者は、事務局に登録して協議会に参加する。
- ・ 協議会の会費(年額)は、個人5千円(一口)、団体2万円(一口)とする。
- ・ 登録方法は、別紙申込書により事務局へ申し込む。
- ・ 協議会においては、あらかじめ課題を定めてそのテーマにふさわしい有識者から話題提供等をして頂き、フリーディスカッションを行う。検討の結果については、必要に応じて整理する。
- ・ 協議会の事務局は、(社)日本有機資源協会において行う。
- ・ 協議会の開催に当たっては、関係省庁は協力することとし、必要に応じてアドバイス等を行う。